

論文 / 著書情報  
Article / Book Information

題目(和文)	内モンゴル現代建築の蒙古特性におけるゲルの意匠
Title(English)	
著者(和文)	通拉嘎
Author(English)	Tonglaga
出典(和文)	学位:博士(工学), 学位授与機関:東京工業大学, 報告番号:甲第12564号, 授与年月日:2023年9月22日, 学位の種別:課程博士, 審査員:奥山 信一,安田 幸一,塚本 由晴,藤田 康仁,村田 涼
Citation(English)	Degree:Doctor (Engineering), Conferring organization: Tokyo Institute of Technology, Report number:甲第12564号, Conferred date:2023/9/22, Degree Type:Course doctor, Examiner:,,,,
学位種別(和文)	博士論文
Category(English)	Doctoral Thesis
種別(和文)	論文要旨
Type(English)	Summary

## 論文要旨

THESIS SUMMARY

系・コース： Department of, Graduate major in	建築学 建築学	系 コース	申請学位 (専攻分野)： 博士 Academic Degree Requested Doctor of (工学)
学生氏名： Student's Name	TONLAGA		審査員主査： Chief Examiner 奥山信一 教授

### 要旨 (和文 2000 字程度)

Thesis Summary (approx.2000 Japanese Characters )

本論文は、「内モンゴル現代建築の蒙古特性におけるゲルの意匠」と題し、以下の6章から構成されている。

第1章「序論」では、蒙古民族は13-14世紀にかけてユーラシア大陸を横断する巨大な帝国を築き上げながらも、遊牧民族の特性として定住文化が希薄であったため、蒙古独自の恒久的な建築様式は16世紀以降のチベット式寺院、漢式寺院、イスラム式寺院など様々な様式の折衷として定着してきたこと、そうした経緯を受けて、現在の蒙古民族の主な居住地域の一つである内モンゴルでは、2001年に内モンゴル政府による民族の特徴を反映した建築指針が制定されて以降、蒙古民族の伝統文化や内モンゴル地域の風土といった様々な事柄に着目した現代建築がつくられてきたが、それらの表現手法の解釈は不問に付された状況にあることを研究の動機として、本論文の目的が、それらの建築を設計した建築家の言説に着目し、内モンゴル現代建築における民族性、地域性に関する建築家の思考の検討を通して、蒙古民族の建築的象徴と目されるゲルの重要性を指摘し、ゲルをモチーフにした現代建築に限定してその実体表現を、意匠の特徴、蒙古民族の精神文化の観点から評価することで、内モンゴル現代建築の蒙古特性の一端を捉えるものであることを示し、併せて研究の方法および概要を述べている。

第2章「建築家の設計論にみる内モンゴル現代建築の蒙古特性」では、中国の代表的な建築専門誌に掲載された内モンゴル現代建築における建築家の設計論を資料に、そこで記述されている蒙古特性として着目された対象とそれに対応する表現手法との関係を検討している。その結果、歴史的・土着的対象に着目した場合は建築の部分的に、自然環境に着目した場合は全体形に表現が反映させる傾向があること、さらに土着の民家形式は草原などの自然環境へ対応し、ゲルは遊牧民族としての文化に対応することから、本論文でテーマとしている蒙古特性におけるゲルの重要性を検討している。

第3章「ゲルの意匠的特徴」では、ゲルを歴史および意匠的に研究した文献を資料に、それらの文献での成果を開陳するとともに、ゲルの意匠的特徴に関する記述内容を抽出し比較検討することで、ゲルの意匠的特徴を架構や仕上げ材などによる基本構成、紋様や色彩などによる装飾表現、および集落を形成した際の集合形式という3つの側面から捉えられることが妥当であることを明らかにしている。

第4章「ゲルにまつわる精神性」では、3章で対象とした文献を資料に、ゲルの意匠的特徴に対応する蒙古民族の生活文化や世界観を示す精神性に関する記述内容を、ゲルをモチーフにした現代建築における蒙古特性の表現を評価する上での重要な指標と位置付け、それらを抽出し相互に比較検討している。その結果、それらの意味内容のまもりは、ドームに代表されるゲルの屋根形態に投影された宇宙観、天窓と放射状の屋根架構に太陽崇拜が投影されたシャーマニズム、紋様や色彩に草原や空など自然現象への畏敬が投影された自然崇拜、ゲルの集合形式に遊牧生活での制度や集団精神が投影された遊牧精神としてまとめられることを明らかにしている。

第5章「ゲルを参照した内モンゴル現代建築の意匠表現」では、2章で対象とした資料の中からゲルを参照したものに着目し、3章で見出したゲルの意匠的特徴を反映する部位をゲル部として特定した上で、資料対象とした建築の実体表現をゲルの意匠的特徴の反映の程度、建物内外における視認性、非ゲル部との位置関係などを指標に類型化し、それらについて、4章で検討した精神性も踏まえて、ゲルを参照した現代建築の意匠表現を総合的に検討している。その結果、ゲルの意匠的特徴を内部空間にも外部形態にも現し、精神性を反映した意匠も加えたゲルの造形的な象徴表現を中心として、外部形態のみに特化した表現と、ゲル部を造形化せず、ゲルの意匠的特徴の部分のみを再解釈し抽象化した表現といった、ゲル部の象徴表現の形態化と消失という対極的な尺度のうちに各類型を位置付けられること、および象徴としてのゲル部表現が消失している類型に精神性を標榜する傾向があることを見出し、伝統解釈における直裁的な造形表現と精神性の深度との相反性を指摘している。

第6章「結論」では、以上で得られた結果をまとめ、内モンゴル現代建築における蒙古特性について、本論で得られた知見を総括する。

備考：論文要旨は、和文 2000 字と英文 300 語を 1 部ずつ提出するか、もしくは英文 800 語を 1 部提出してください。

Note：Thesis Summary should be submitted in either a copy of 2000 Japanese Characters and 300 Words (English) or 1 copy of 800 Words (English).

注意：論文要旨は、東工大リサーチリポジトリ(T2R2)にてインターネット公表されますので、公表可能な範囲の内容で作成してください。

Attention: Thesis Summary will be published on Tokyo Tech Research Repository Website (T2R2).

(博士課程)  
Doctoral Program

## 論文要旨

THESIS SUMMARY

系・コース： Department of, Graduate major in	建築学 建築学	系 コース	申請学位（専攻分野）： Academic Degree Requested	博士 Doctor of	（工学）
学生氏名： Student's Name	TONLAGA		審査員主査： Chief Examiner	奥山信一 教授	

要旨（英文 300 語程度）

Thesis Summary (approx.300 English Words)

This research analyzed the architectural design theory of all architectural works in the Inner Mongolia Autonomous Region which have been reported in Chinese architecture magazines since 1949. Through the architectural design theory, this paper examines what features the architects took as the reference object to show the Mongolian characteristics, and how they showed them in the design works; As a result, the Mongolian yurt expresses the ethnicity of the Mongolian nomadic people, while the other indigenous folk house forms show the vernacular character of adaptation to the natural environment of Inner Mongolia. In terms of how to further develop the Mongolian characteristics into the overall architectural form, it is clarified that it can be understood as symbolization and adaptation of the Mongolian ethnic culture and climate. Therefore, the next study analyzes how the Mongolian yurt, as a traditional building, is expressed in modern architecture. First, taking the books and papers on Mongolian yurt published in China as research literature, this study sorts out the results of architectural characteristics of Mongolian yurts. It could be summarized from the three aspects: basic composition, decoration and collection. And then uses these characteristics to analyze the Mongolian yurt parts in modern architecture. This study also obtained three types of yurt parts in modern architecture and analyzed their architectural characteristics. After that this study analyzes the Mongolian yurt visual recognition and from both the outside and inside perspectives to summarize the five classifications and their characteristics. And then we made a comprehensive analysis of the visibility, collocation and use, as well as spiritual characteristics, and got tendencies of symbolic skeletonization and symbolic disappearance. This study illustrates the thinking way of contemporary architects in terms of the expression of Mongolian characteristics of contemporary architecture in Inner Mongolia, in order to provide a basis for the exploration of Mongolian characteristic architectural design in the future.

備考：論文要旨は、和文 2000 字と英文 300 語を 1 部ずつ提出するか、もしくは英文 800 語を 1 部提出してください。

Note：Thesis Summary should be submitted in either a copy of 2000 Japanese Characters and 300 Words (English) or 1copy of 800 Words (English).

注意：論文要旨は、東工大リサーチリポジトリ(T2R2)にてインターネット公表されますので、公表可能な範囲の内容で作成してください。

Attention: Thesis Summary will be published on Tokyo Tech Research Repository Website (T2R2).